

# 学会活動を通じた 次代を担う土木技術者の育成

廣瀬 典昭 土木学会第103代会長

昨年、土木学会は創立100周年を迎えました。記念行事も磯部前会長の指揮のもと、滞りなく行うことができました。これも数年前から準備を進めてこられた関係各位の御尽力の賜物と心から感謝申し上げます。創立100周年では、長期的目標として「あらゆる境界をひらき、持続可能な社会の礎を築く」が宣言され、当面5年間の活動目標と行動計画としてJSC E2015が策定されました。101年目の今年は、その具体的な取り組みをスタートさせる年です。

さて、わが国を取り巻く環境は著しく変化しています。人口減少と急激な少子・高齢化社会の到来、エネルギー供給のバストミックスと地球環境への対応、防災対策やインフラの延命化も急がれています。これらの多くは、早晩、先進国や中進国が直面する課題であり、持続的社会的実現のためには、世界に先駆けわが国が解決策を編み出し実践することが望まれています。同時に、蓄積した土木技術を駆使し、開発途上国や新興国のインフラ整備を通じて国際貢献

することも、グローバル時代におけるわれわれの責務と言えます。JSC E2015の推進にあたっては、これまでの経験や最新技術の活用はもちろんですが、特に、それぞれの地域の市民とともに、地域経営や国土のあり方について考えることが、今まで以上に重要となります。そして、その担い手、すなわち、土木技術をもって社会に貢献しようとする志と熱意をもった人材の確保と育成は土木学会の大きな役割です。土木学会は、年代、職域、性別の異

なる多くの方々からなる集合体です。学会活動の場は、そこに参画する若者にとって、さまざまなバックグラウンドを有する人びとを理解する絶好の機会ともなり得ます。会員が丸となって、次代を担う若い土木技術者の育成に取り組むことを第一目標とし、学会活動の活発化を図ってまいりますので、会員の皆様方より一層のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

